

教育委員会協議会 会議録

平成29年度第9回教育委員会協議会

場所：高知共済会館

(1) 開会及び閉会に関する事項

開会 平成30年3月16日(金) 18:00

閉会 平成30年3月16日(金) 19:56

(2) 教育委員会出席者及び欠席者の氏名

出席委員	教育長	田村 壮児
	教育委員	平田 健一
	教育委員	竹島 晶代
	教育委員	八田 章光
	教育委員	木村 祐二
	教育委員	中橋 紅美

(3) 高知県教育委員会会議規則第8条、第9条の規定によって出席した者の氏名

高知県教育委員会事務局	教育次長(総括)	北村 強
〃	教育次長	藤中 雄輔
〃	教育次長	永野 隆史
〃	教育政策課課長	酒井 啓至
〃	教育政策課課長補佐	泉 千恵
〃	教育政策課チーフ	津野 哲生
〃	高等学校課課長	高岸 憲二
〃	高等学校課企画監(再編振興室長)	山岡 正文
〃	高等学校課再編振興担当チーフ	池上 淑子(会議録作成)
〃	高等学校課指導主事	野中 昭良
〃	教育政策課指導主事	小島 丈晴(会議録作成)

【開会】

田村教育長	<p>ただいまから、第9回高知県教育委員会協議会を開会させていただきます。</p> <p>委員の皆様方におかれましては、大変ご多用のなか、そして毎度のことですけれども、夜の会ということで大変ご苦労さまでございます。ありがとうございます。それから、傍聴の皆様方、そして報道の皆さん、この会に関心を持ってご出席いただきましてありがとうございます。</p> <p>この会は、今回9回目ということですが、第2回～第6回までは地域に出向いてご意見をお伺いし、それから前回、前々回では幾つかのポイントについて、全体的な方向性についてご議論をいただきました。</p> <p>今回は、これまでの議論を踏まえまして、いよいよ、それぞれの学校の在り方についてご議論をいただくということにしております。今回は県内の、どちらかという中央部から東の学校について、ご議論をいただくということにしておりますので、どうかよろしくお願ひしたいと思います。</p>
-------	--

	<p>それでは早速始めさせていただきます。議事録署名人につきましては、八田委員よろしくお願いいたします。</p>
八田委員	はい。

【議題】

○第8回教育委員会協議会での協議内容のまとめ

田村教育長	<p>まず、前回の協議内容のまとめについて、事務局の方から説明をしております。</p>
山岡企画監	<p>はい。資料1、1ページです。県立高等学校再編振興計画の「後期実施計画」策定に関する全体の方向性の資料につきまして、ご説明させていただきます。第7回と第8回の協議・確認事項を記載しております。</p> <p>枠の中がまとめ、そして併せて、「具体の意見」という形にさせていただいております。1～4の項目につきましては、前回の協議会で確認させていただきました。5～7につきまして、今回新たに確認させていただきたいと思っております。</p> <p>南海トラフ地震への対応についてというところですが、被害が予想されている学校については、生徒の安全第一で検討していただきたい。なお、その際には、想定外も想定していく必要があるのではないか。そして、学校の移転については、浸水深だけではなくて、市町村のまちづくり計画やBCPも含め、総合的に判断していく必要があるのではないかということにまとまりました。</p> <p>具体の意見としましては、清水高校については、一刻も早く高台へ移転すべきである。そして、高知海洋高校については、学校の性質上、高台移転は難しいため、現校地での学校早期再開のため、BCPを早急に策定する必要があるというような意見がございました。</p> <p>続きまして、併設型中高一貫教育校というところがございます。</p> <p>県立安芸中学校につきましては、「存続の有無も含め検討する必要がある」という意見と「継続すべきである」という意見がありまして、今後、継続して協議していくということになりました。</p> <p>具体の意見としましては、市町村と一緒にどうあるべきか検討する。今後も児童数が減少していく状況では、現在の入学定員（60人）を維持することは難しい、場合によっては、募集停止もあり得る。その場合は、市町村立中学校と連携することが必要であるということ。一方では、本県の地理的なバランスを考えると必要であるという意見もございました。継続する場合は、教育内容の充実を図る必要があるというような意見がございました。そして、29年度の志願者の大幅減ということがありましたので、その要因も分析して、運動部活動の拠点校としての振興策を考えていくべきではないかということでした。</p> <p>そして、県立中村中学校につきましては、児童数の減少は東部に比べて緩やかで、倍率も1倍以上あるというところから、継続するけれども、併せて中学校の魅力化、そして高校の魅力化・振興策も図る必要があるのではないかというようなことでもございました。</p>

<p>田村教育長</p>	<p>続きまして、学科（総合学科や地域の実態やニーズを踏まえた新たな学科など）についてという部分につきましては、県全体にバランスよく、学科や進学拠点校、支援を必要とする生徒への対応をする学校、そういったところをバランスよく配置する必要があるのではないかということでした。</p> <p>地域会の意見とか、それ以外にも学校関係者などからの意見を踏まえて、魅力ある学校づくりを行う必要があるというところでございます。</p> <p>具体の意見としましては、地域の特性や実態に応じた魅力的な学科やコースの設置も必要ですと。</p> <p>そして高大連携や、小中高連携も踏まえて検討する必要があると。</p> <p>中山間地域の学校も生徒の進学希望には、十分対応しているということも PR する必要があるということでした。</p> <p>総合学科につきましては、生徒が選択できるという理想的な学科でありますけれども、そのメリットが生徒や保護者、中学校に伝わってないということで、そこは PR する必要があるということでした。</p> <p>そして、キャリアプランを考えるのは小学校・中学校段階で、キャリア教育について、自らのキャリアプランを考えていく必要があるのではないかという意見がございました。</p> <p>資料 1 につきましては、以上でございます。</p> <p>資料 1 は、前回までの議論の大きな方向性についてのまとめについて、確認をしていただくということでございますけれども、これについて、ご意見ご質問がございましたでしょうか。よろしいですか。</p> <p>それでは、協議案のまとめはよろしいということで。</p>
--------------	--

○県立高等学校の地域別配置状況について

<p>田村教育長</p>	<p>では次に、(2)の「県立高等学校の地域別配置状況について」ということで説明をしてもらえますか。</p>
<p>山岡企画監</p>	<p>4 ページをご覧ください。県立高等学校の地域別配置状況についてご説明をさせていただきます。前回の協議会の方で、バランスのとれた学校配置が必要ではないかというようなことで、全体の配置状況についてご説明させていただきます。</p> <p>東部・北部・中部・高吾・幡多地域ごとに、普通科、総合学科、専門学科、定時制夜間部、そして通信制、中高一貫教育校、進学拠点校、学び直しの機能を持った学校、そして運動部活動の強化校ということで、黒丸印（●）を付けて、全体にどんな配置になっているかを分かりやすくしたものでございます。</p> <p>一つ抜けている所がございます。追記をお願いいたします。高知小津高校のその他の欄に、「理数科」の記述をお願いいたします。</p> <p>ここにありますとおり、普通科は 24 校、総合学科は 4 校、農業科は 2 校、工業科は 5 校、商業科は 3 校です。これは、幡多地域で商業科がないという意見がございましたけれども、前回ご説明しましたように、総合学科の部分で商業科もこの中にあるということでございます。</p>

田村教育長	<p>水産科は1校、看護科も1校、そして、その他の科につきましては、5校あるということでございます。これは、高知国際高校については、グローバル科をこの段階で入れております。</p> <p>定時制夜間部は、ここにありましており12校。そして、通信制は2校。中高一貫教育校のなかで、併設型は4校、連携型も4校ということになっております。</p> <p>進学拠点校につきましては、上にも記述してはいますが、高知国際高校が高知西高校から引き継がれるということで、これも進学拠点校に入れておりますので、6校というところでございます。</p> <p>学び直しの機能を持った学校が5校。そして、運動部活動の強化校というところで、この強化拠点校といいますのは、運動部活動数や部員数が多く、学校全体で運動部活動を活性化することが期待できる学校ということで、東部地域では安芸高校、中部地域では岡豊高校と高知工業、そして西部地域では中村高校となっております。</p> <p>そして強化推進校Aといいますのが、過去3年間において優秀な実績を有する運動部ということで、全国大会で入賞した実績などがある学校ということでございます。ここにもありましており、山田高校の陸上競技部、高知東高校と高知南高校のレスリング部というところでございます。</p> <p>そして強化推進校Bは、地域と連携した活動により、競技力向上を目指すことが期待できる運動部というところでございまして、これからの振興策にも関わってくる部分になるかと思っておりますけれども、室戸高校の女子硬式野球部、嶺北高校のカヌー部、そして須崎総合高校のカヌー部、佐川高校のソフトボール部、禰原高校のアーチェリー部、幡多農業高校のボート部となっております。説明は以上です。</p> <p>この資料は、これまでの議論のなかで、地域ごとにバランスのとれた学科とかの配置が必要ではないかというような議論がありまして、そのことの参考のためにということで作ってもらった資料です。これについて何かご質問ございますか。</p> <p>では、よろしいでしょうか。これだけでは、ちょっとバランスが十分に見えないところもありますけれども、一応参考にしていただきたいと思います。</p> <p>それでは、各学校別の方向性についてこれから議論していただきます。今日の予定は、相当の数の学校がありますので、幾つかの学校に分けて、今説明してもらった資料2の東部、北部、それから中部のなかでは、高知国際高校までということになります。</p> <p>では、東部、北部、中部別に議論をしていきたいと思っております。</p>
-------	--

○地域別の県立中学校・高等学校の在り方の方向性について

ア 東部地域

田村教育長	そしたら、まず東部について説明してください。
山岡企画監	最初にこの表の見方を説明させていただきます。 「後期実施計画」には、「前期実施計画」と同様に、各学校について学校

の在り方を記載したいと考えております。この表の見方は、学校ごとに「前期実施計画」における学校の在り方が左の方に書いております。

そして次に、学校の在り方について、平成29年9月末、あるいは10月末時点の進捗状況の一つ右の欄に書いております。この部分は、すでに地域会でA3の資料として掲載しておるものでございます。次の欄が、地域会でのご意見で、これもすでに2月13日の第7回協議会で概要をお示しさせていただいております。右端の「後期実施計画における学校の在り方の方向性」、この部分につきましては、「前期実施計画」における学校の在り方をベースにして、その進捗状況や地域会でのご意見、さらには2月の13日、23日の全体の方向性の議論を踏まえて、方向性をお示しさせていただいたものです。これを素案として、委員の皆様からのご意見をいただきたいと考えております。

そして地域会の方では、特に中山間地域にある学校の振興策の充実を求める声が多くございましたので、中山間地域にある学校に共通する方向性として、3点を盛り込まさせていただいております。それについては、枠囲みで書いておりますので、またその都度、その部分についてご説明をさせていただきます。

室戸高校の全日制につきましては、地域理解と地域の課題発見学習を行う「ジオパーク学」「室戸学」を充実させるというところがあります。それから、最後のポツ（・）ですけれども、総合学科の在り方について検討する必要があると、いうところなどがございます。そして室戸高校につきましては、中山間地域にある学校ですので、その共通する方向性の部分を枠囲みで掲載しております。この点につきましては3点ございまして、ICTの活用により難関校への進学希望にも対応できる学習環境、そして、社会性の育成の確保が必要ではないかというところがございます。

2点目としまして、市町村との連携により、地元中学生からの進学率をさらに向上させる必要があるということ。そして、今後、さらに魅力ある振興策を検討し、特色ある学校づくりを行い、地域外の生徒を確保することが必要ではないかと。そういったところを、中山間地域にある学校の共通する方向性として、それぞれの学校に載せております。

定時制につきましても、最低規模を現在、下回っておりますけれども、地理的条件などがありますので、さらに学校の周知を図り、生徒数の確保に努めるというところがございます。

続きまして、中芸高校でございます。6ページをご覧ください。

中芸高校につきましては、様々な学習歴や多様なニーズのある生徒への支援を通じて教育活動の充実を図り、生徒数の確保に努めると。不登校経験者や発達障害の生徒への対応をする学校として、地元の信頼も高いというところで、生徒数の確保に努めるということでございます。

中芸高校の夜間部につきましても、最低規模を下回っておりますけれども、地理的条件なども踏まえて、存続して生徒数の確保に努めるというところがございます。併せまして、中芸高校につきましては、地域の生涯学習の場として、聴講生用の講座も設けるというところがございます。

続きまして、7ページ、安芸高校でございます。

安芸高校につきましては、東部地域の進学拠点校として、国公立大学や難関大学への進学を実現できる支援体制を充実する。そして、併せまして

	<p>「東部地域の運動部活動強化拠点校」として、運動部だけではなくて、文化部の活性化も併せて図るところです。</p> <p>そして、ポツ（・）の5点目、南海トラフ地震への対応や、適正規模を維持する東部地域の拠点校として、活力ある学校づくりが必要であること。そのため、安芸高校と安芸桜ヶ丘高校の在り方についての検討が必要だということでございます。</p> <p>この点につきましては、左の欄に、「前期実施計画」で明記した学校の在り方という所で米印（※）を付けておりますけれども、この部分は「前期実施計画」の方にも書いておりました。「前期実施計画」では、生徒数の減少が見込まれるなかで、田野町と安芸市にある、中芸高校、安芸高校、安芸桜ヶ丘高校の3校の将来的な在り方を検討する必要がある、ということがありましたので、それにならった記述になっております。</p> <p>続きまして、8ページをご覧ください。安芸桜ヶ丘高校でございます。</p> <p>地域のニーズに応えるべく、環境に配慮したインフラ整備に係わる建設技術者の育成に努めるということところです。そして商業科では、地場産業や地域観光の振興に寄与する人材を育てるところです。最後のポツ（・）ですけれども、適正規模を維持する東部地域の拠点校として、活力ある学校づくりが必要だということ、そのため、安芸高校と安芸桜ヶ丘高校の在り方について検討する必要があるということになっております。</p> <p>東部地域については以上でございます。</p>
田村教育長	<p>それでは、ざっと説明がありましたけれども、一番右の欄に、それぞれの学校の在り方の方向性ということで書かせていただいておりますけれども、このことを中心にお話をいただいたらと思います。</p>
	<p>委員の皆様から、この内容についてご意見を伺いたいと思います。よろしく願います。それぞれ、いただくということによろしいですか。</p>
各委員	はい。
田村教育長	それでは順番に、竹島委員から願います。
竹島委員	<p>まず、室戸高校なんですけれども、地域会でのご意見なども伺ったところ、やはり近隣に高校がないということで。でも、入学者数も見ますと、年々厳しい状況にありますし。</p> <p>あと、魅力ある学校づくりという点で今、女子野球部を強化しているんですけれども、やはり人数的に厳しいと思いますので、前回も申しましたけれども、何かもう一つ団体競技を取り入れてみてはどうかと思います。</p> <p>やはり地域へのアピールっていうのも、今からだとなかなか時間がかかるので、やはり部活動の充実ということ、早急にやってもらえればいいかなと、私は思います。</p>
田村教育長	<p>ありがとうございました。学校の活性化という意味で、部活動の活性化に取り組んだらどうかというようなご意見であったと思います。</p> <p>それでは、中橋委員願います。</p>

中橋委員	<p>私の方は、今日示していただいた東部の学校の在り方の方向性につきまして、基本的にこの方向性で考えていくのがいいのではないかと考えています。</p> <p>かねてから、地域間のバランスというお話を、私も度々この場でさせてもらいましたけれども、資料2などの東部のバランスを見ると、交通の便とか、そういった色々な地域性を考えると、やはり地域において、学校の存在というのは非常に大切であると考えています。なので、この示された方向性に基づいて、ちょっと考えていきたいなと思います。</p>
田村教育長	<p>地域バランスを考えた時に、今言ったような現在の方向性でいいかなという、そういう感じですかね。</p> <p>それでは、木村委員お願いします。</p>
木村委員	<p>室戸高校だとか中芸高校に関しましては、地域性ということも含めて、基本的にここに書いてあります学校の在り方の方向性ということで、全く異論がないところでございます。</p> <p>ただ、特に東部に限ったことではないですが、やっぱり地域や地域のそれぞれの行政が一緒になって、どうやれば本当に子どもたちにとって行きたい学校で、保護者からは行かせたい学校で、また地域には、その学校をうまく地域の活性化に生かせるような学校に仕上げていけるのかというのを、一緒になって検討していくということが、少なくとも必要な条件となるのではないかというふうに思います。</p> <p>安芸桜ヶ丘高校と安芸高校に関しましては、全体の人数を考える、または、中高一貫という進学拠点校と、それからスポーツ振興の学校も、いろんな観点から、両校の在り方というのを本当に、再度検討する必要があるのではないかというふうに考えています。</p>
田村教育長	<p>ありがとうございました。基本的には、それぞれの学校の必要性があるということで、ただし、地域の行政とか地元が一緒になって盛り上げていってもらえるような、そういったことが必要じゃないかというようなこと。</p> <p>それから特に、安芸高校と安芸桜ヶ丘高校については、その地域の拠点という位置付け、進学拠点であったりスポーツの拠点であったりというようなことから、在り方を色々と検討する必要があるだろうと、そういうような感じでよろしいでしょうか。</p>
木村委員	はい。
田村教育長	ありがとうございました。そしたら、八田委員お願いします。
八田委員	<p>まず、室戸高校ですけれども、今日追加で配っていただいたA日程の結果を見ると、ちょっと極端に受験者が減っているというところがあって、以前から資料でいただいている室戸市の中学生の数からすると、ちょっと少なすぎるなど。</p> <p>それで、室戸のこの地域性を考えると、どうしてもここは残したいわけですけれども、じゃあ逆に残したけども、なかなか地元の中学生在が進学しな</p>

いとすると、何が問題なのかなというところが、一つ大きな課題だと思います。

それで、室戸高校は総合学科なんですけども、ほかの学校でも総合学科の在り方は結構問われているようで、普通科に比べるとカリキュラムが自由度が高くて、例えば室戸のように、地域には室戸高校しかないという場合に、非常にレベルの高い進学にも対応できるし、それから就職にも対応できるし、地域のことも学べる、非常にいいカリキュラムがあるはずなのに、そこがどうも理解されていないのかなというふうに感じます。

なので、総合学科の強みをもっと生かして、地域の子どもたちが、やっぱり室戸高校で勉強したいと思ってくれるように、何か中身を改革なり何なりが必要なのかなというふうに、室戸高校については感じています。

中芸高校については、非常に多様な生徒に対して、ちゃんと対応できているっていうこともあるので、ここは今まで通り残すのか、それとも何か違った形。「前期実施計画」で、中芸高校と安芸高校と安芸桜ヶ丘高校の将来的な在り方というふうに提言されているので、ただ、今の状況を維持するというだけでは留まらないで、何か少し考えなければいけないのかなと。ちょっとそこはよく分からないなと思っています。

それから、安芸高校と安芸中学校ですけれども、安芸中学校の件は、先ほどの前回のまとめにもあったんですけれども、地域の小学生の数が、香南市を除くと、東部全体で実質 300 人しか今いなくて。

そうすると、じゃあ 300 人のうち、中学校から地元の公立ではなくて安芸中学校、あるいは私立も含めてですけど、そういう所をあえて選択する子どもってというのが、やはり 20%もいるとは思えないので、仮にそれが 10%いたとしても 30 人しか、そもそも集まらないはずなんですよね。

それぐらい、もう子どもが減っているなかで、今の 60 人定員というのは、これはもう絶対無理なので、何かこう、形を変えていく必要があるだろうと思います。

それから、安芸高校については、やはり南海トラフへの対応というのは非常に難しい問題だと思っていて、見学にも行ったんですけど、非常に耐震性の高い、その地域としては、もうそこが避難所になるような立派な建物を建てている。

でもやっぱり、海に向かった所で子どもたちが勉強するのが本当にいいのかっていう声は、非常に難しい問題だと感じました。

それで、今度は逆に一つ例としては、清水高校の場合に、清水市として、こういう高台移転というまちづくりをこれからしていくんだということが明確にされて、じゃあ清水高校をこうしましょうよということが、明確に見えてくるというところがあったんですね。

それを考えると、安芸市であるとか、その周辺市町村がこれからどんなまちづくりをしていくのかなと。どういう所に、例えば市役所の問題がちょっとありますけども、市役所をどこに移していくのかなと。

そういうまちづくりと全く関係なしに、地震対応でこの高校をどうしていくかっていうのは、なかなか議論しにくいなというふうに感じていて、ちょっと拙速な議論は難しいなと思っています。

安芸桜ヶ丘高校についても同じことなんですけども、桜ヶ丘高校もやはり、南海トラフでは安芸高校と同じぐらい厳しい状況にあるので、そこら

<p>田村教育長</p>	<p>辺を一緒に、安芸地域のまちづくりと一緒に考えていく必要があるなという ことで、なかなか具体的な案を出すのが難しいなと感じているところ です。以上です。</p> <p>ありがとうございました。それぞれの学校についてコメントをいただき ました。</p> <p>室戸高校についても、地域性からすれば当然、学校として在ることは必 要なだけけれども、ということ。ただ、受験生が随分減っているとい うことで、やはり地元から中学生が進学してもらえる、そういう魅力のある 高校に、特にその総合学科の良さを生かして、そういった方向に持って いくべきだろうというようなお話でした。</p> <p>それから、中芸高校については、今、非常に多様な生徒に対応できる、 そういった高校になっているという面は評価しながらも、このままでい いのかどうか。「前期実施計画」では、安芸高校、安芸桜ヶ丘高校と一緒 に在り方を検討というような方向性も出されていたけれども、そういった ことも考えなくてもいいのかと、というようなお話だったかなというふう に思いました。</p> <p>それから、安芸と安芸桜ヶ丘については、まず安芸中学校について、そ もそも東部の地元からの中学生、進学者が300人ぐらいいかないなか で、定員60人のままでやっていけるのかどうか。そこは無理があるん じゃないか。そこをもう少し検討する必要があるんじゃないかというよう なお話でした。</p> <p>それから、高校については、特に安芸・安芸桜ヶ丘ともに、安芸市の まちづくりとの関係を考えて検討する必要があるんじゃないかと。今の 時点で、そこがあまり見えてないので、なかなか考えにくいところがあ るというような、そのようなお話であったかなと思いますけども、とい うようなことでよろしいですか。</p>
<p>八田委員</p>	<p>はい。</p>
<p>田村教育長</p>	<p>ありがとうございました。そしたら、平田委員お願いします。</p>
<p>平田委員</p>	<p>東部の学校につきまして思っていることは、今まで4名の委員さんがお 話されましたことと重複している部分もいくつかあるかと思いき けど、東部の高等学校4校を考えました時に、それぞれの学校が、東 部地域で一定の役割を分担している学校として存在しているのでは ないかと考えているのが、第1点でございます。総合学科というお 話がよく出てきますけど、私は、あの地域を考えました時に、子 どもたちが自分の自己実現を図るためには、できるだけ選択肢が ある学校は必要であると思っております。1点目は、現在役割分 担ができていないのかという考え方でございます。</p> <p>それと、東部ブロックでお話を聞きました時に、例えば室戸高 校では、市長と高校生が話し合いを持って、高校生会議を持 っているという説明があったと思います。また中芸地域では、 中芸教育振興会という会を持ちながら、中芸の教育の振興 について検討もしていると。また、安芸につつま</p>

	<p>しては、フレンドシップ協定を結んで、安芸市と安芸桜ヶ丘・安芸高校が、まちの振興策等、両校の活性について議論をしているという説明があったと思います。</p> <p>地域と学校が一緒になって考えているという、この取組を一定期間は見守っていききたいという思いをもっております。</p> <p>それと、資料3でございますけど、方向性につきましては、委員さんからもありましたが、よく色々の今までの議論を踏まえまして、方向性としてまとめていただいているなという感じをしております。</p> <p>なかでも、具体的に安芸桜ヶ丘高校と安芸高校の在り方について検討が必要という、この項につきましては、私も、子どもたちの部活動だとか学校規模だとか、いろんな面を考えても大変距離的にも近い学校ですので、振興策について検討する必要があるのではないかと考えております。</p> <p>ただ、私自身いつも思っているんですけど、科学的な根拠をもって子どもたちの命を守るということで、津波対策だと思うんですけど、安芸高校、安芸桜ヶ丘高校、どちらの立地場所が子どもたちの命を守るについては適切かという、一定のご判断を科学的な根拠に基づいてしていただきたいと思っております。両校とも津波到達時間は違いますが、浸水状況なんかは似た数字だと思いますし、逃げる場所なんかも違いもありますので、両校の在り方を考える時に、科学的な津波対策というのは必ず必要ではないかと考えております。</p> <p>この方向性で、私どもは議論をしていききたいというふうに思っております。以上です。</p>
田村教育長	<p>ありがとうございました。この東部の4校とも、地元の自治体と一緒にあって振興策に取り組んでいるというようなところ、そこは一定評価をして見守っていききたいということですよ。</p> <p>それから、特に安芸・安芸桜ヶ丘については、これまでも委員さんからもご意見がありましたけれども、在り方についての検討というのは、振興策という意味で必要だろうと。</p> <p>あと、津波対策については、さらに科学的な検討も加えてもらいたいと、そういうようなご意見ということでよろしいでしょうか。</p> <p>全体としては、今、資料3に書かれていることについて、特に異議はあまりないというようなことでよろしいでしょうか。</p>
平田委員	はい。
田村教育長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、東部地域の4校について、それぞれの委員さんからご意見をいただきましたけれども、ほかの委員さんのご発言を聞いて、また何かありましたらどうぞお願いしたいと思います。</p> <p>進め方ですけれども、結論的に、これで行きましょうというようなところまで、今日はまとめるつもりはありません。それぞれの皆さんからご意見をいただいて、こういう意見もあった、ああいう意見もあったというような形で、とりあえず意見を出し合いをしていただくというような形で、今日はさせていただいたらと思っておりますので、ご遠慮なくどうぞ、ご発</p>

竹島委員	<p>言いただければと思います。</p> <p>すみません。じゃあもう1点。 八田委員や平田委員もおっしゃいましたけれども、やはり、南海トラフのことは一番気になりますし、想定外のことも本当に考えないといけないし、安芸高校へ学校訪問をした時に、屋上への避難ということで屋上へ上がったんですけれども、やはり目の前が海というのは、すごく恐怖感を感じました。だから、やはり子どもたちのことを優先して考えた場合に、そのことは本当に真剣に検討していきたいと思います。</p>
田村教育長	<p>津波対策ですね。それをしっかりと考える必要があるということだと思います。</p>
木村委員	<p>総合学科の件ですが、さらなる学校の工夫もさることながら、やはり保護者と中学校の先生に、総合学科の中身といいますか、意味合いをもう少ししっかり理解してもらうようなことをしないと、保護者の皆さん方からの、総合学科じゃなくて普通科にしてほしいというような声が多くて、これは本当に、十分に理解されていないんだなという気がしましたので、そのあたりを特に検討しないといけないのではというふうに感じました。</p>
田村教育長	<p>そうですね。東部地域に限らず、総合学科のある学校については、そういうご意見が地域からもありました。</p> <p>総合学科について、保護者の皆さん、生徒さんももちろんんですけども、理解をしていただくような、そういった取組が必要だろうと。そういうことですね。</p> <p>そのほか、いかがでしょうか。特に、安芸と安芸桜ヶ丘の在り方みたいなところで、一つは先ほどお話があったように、まちづくりとの関係性というのは、とても大きな視点だと思いますし、それから津波の問題ですね。大きな問題だと思いますけれども、この点について。</p> <p>あと、安芸の県立中学校について、地域の会の中でも色々ご意見が出ましたけれども、特にございませんか。</p> <p>それでは、今、資料3に書かれてあること自体に、特に異論ということではないというような感じで、全体的にはお伺いをしました。</p> <p>これをあと、取りまとめをしていく場合に、今日色々ご意見いただきましたので、そういったものを加味して、さらに内容を詰めていくというような形にさせていただきたいと思いますが、そういうことでよろしいでしょうか。</p> <p>それでは、東部地域の4校については以上とさせていただきます。</p>

イ 北部地域

田村教育長	<p>次は北部の2校を、分校も含めてですけれども、こちらについて議論していきたいと思います。</p>
山岡企画監	<p>北部地域の学校の在り方の方向性というところがございます。</p>

	<p>9ページをご覧ください。嶺北高校でございます。</p> <p>連携型中高一貫教育を推進するとともに、地域との連携をさらに発展させるというところでは、また、カヌー部生の全国募集など、地域外からも生徒を受け入れることができる体制を整備して、生徒数の確保に努めるということも盛り込みたいと思っております。また、現在でも実施しております遠隔教育で、生徒の進路希望に応じた選択科目が設置できるというようなこともありまして、多様かつ高度な教育に触れる機会を提供したいというふうに考えております。そして、室戸高校でも説明させていただきましたけれども、中山間地域にある学校に共通する方向性というところで、ICTの活用による学習環境、社会性の育成の確保、それから市町村との連携、そして更なる魅力ある振興策をつくって、域外から生徒を確保する。これも盛り込みたいと思っております。</p> <p>続きまして、10ページをご覧ください。追手前高校の吾北分校の在り方の方向性でございます。</p> <p>地域との連携、そして地域の特性を生かした取組を通じて、教育活動の充実を図ることによりまして、生徒数の確保に努めていきたい。そして、少人数というところを生かして、国公立大学進学から就職まで、個別にきめ細かな指導をしていきたいと考えております。そして吾北分校も、本校との遠隔教育を現在実施しておりますので、同じく選択科目の充実、そして、多様かつ高度な教育に触れる機会を提供していきたいというふうに思っております。中山間地域にある学校に共通する方向性としては、嶺北高校、室戸高校と同じでございます。説明は以上です。</p> <p>田村教育長 あと、嶺北高校には地域からのご意見で追加の資料がありますので、そちらも。</p> <p>山岡企画監 はい。資料の最後、資料ナンバー7の後に、「高知県立嶺北高校と嶺北地域のつながりの深化・進化に向けて」というところがございます。これは、嶺北地域の唯一の高校である嶺北高校を地域で盛り上げ、存続させるため、高校と嶺北4町村で「嶺北高校魅力化の会」を3月2日に設立しました。その会長であります、本山町の細川町長からの意見が来ております。嶺北高校は、嶺北地域の最高学府ということで、進学・就職率も100%であり、子どもたちの未来をつくる学校でもあるというところでございます。そして、具体的な要望としては、裏面に載せております「嶺北高校には以下のことを意識した学校づくりを行って頂きたい」という要望が来ております。</p> <p>一つ目が、本当にやりたいことに取り組める「自主活動」の推進というところでは、そして二つ目が、地域連携した農業・商業を実学とする「農業コース・商業コース」の授業ということです。そして、行きたいところに行ける幅広い「進学・就職」を、ICTの積極的な活用により実現していただきたいというところで、そして、全国レベルの「カヌー部」を掲げる強豪校化というところで、カヌーの世界チャンピオンのラヨシュ・ジョコシュ氏が今来ておりますので、そのジョコシュ氏の力を得ながら、カヌー部を強豪化していくことでございます。そういったところに取り組んでいただきたいというところで、要望が来ております。説明は以上です。</p>
--	---

田村教育長	<p>追加でそういう形でいただいたご意見も含めて、この2校についてご意見をいただきたいと思います。</p>
平田委員	<p>はい。北部地域の学校として、嶺北高校と追手前高校吾北分校、この2校の今後の在り方という点になりますけど、嶺北高校で先ほどお話もいただきましたけれども、嶺北高校魅力化の会という資料は、今初めて見たわけでございますけど、ブロック会議で、本山町の教育長さん、土佐町の教育長さんから、嶺北高校にかける熱い想いを聴かせていただきました。</p> <p>また、吾北分校につきましては、いの町長さんから、こういう支援をして吾北分校を振興していくんだという、この話も大変熱い想いで、財政的支援もしていきたいというお話がございました。</p> <p>併せまして、現在開会中でございます県議会におきましても、新聞紙上だけでございますけど、尾崎知事が今後の県行政につきまして、中山間地域の活性化に全力で尽くしていきたいという、お話があったと思います。これから中山間地域に高校がなくなれば、若い人材が定住・移住することは難しい。そのために高校の存在は必要だと。</p> <p>おそらく、この嶺北地域や吾北地域のこの2校は、その地域に該当すると思います。そのため、いろいろと教育長さん、首長さんが熱い想いで語ってくれたという、この方向性は、私、本当に大事にして、高校もその声を聴きながら、振興策に取り組んでいただきたいと思います。</p> <p>そのことと併せまして、嶺北地域からも要望が出ておりますけど、やはり高知県の中山間地域の教育の手法として、このICT活用による教育というのは、これは取り組んでいく必要があると思います。県の教育行政としても、こうした中山間地域の学校には、ぜひこの教育手法に取り組んでいただきたいと。2校とも現在、岡豊高校と嶺北高校、高知追手前高校本校と吾北分校は、遠隔操作の授業を行っていると聞いておりますけど、なお一層、振興策としては、この取組を進めていただきたいと思っております。</p> <p>地域と一体となった、やはり振興策をこの2校には、特に期待をしたいというのが私の想いでございます。以上でございます。</p>
八田委員	<p>2校とも中山間で、その地域の子どもたちがどんどん減っていくという状況に今、追い込まれているわけですね。</p> <p>まず嶺北の方は、連携型の中高一貫教育をずっとやってきているんですが、必ずしもそのなかでの進学者数の割合が、ずっと高くキープできているわけではないと。</p> <p>今回、先にご紹介いただいた魅力化の会のお話があります。これで、その地域が嶺北高校にこういうことを期待しているんだってことを、明確にさせていただいた以上は、われわれもこれに応えなければいけないので、それにももちろん応えるように、学校の魅力化を、あるいはカリキュラムの改善を図っていくと。</p> <p>それと地域の中学校の教育が本当にマッチすれば、もっと進学率は上がるでしょうから、もう少し運営もやりやすくなるのではないかなというふうに、これは感じます。</p> <p>もう一つの吾北分校の方は、少し気になっていることは、分校であるこ</p>

	<p>とは本当は強みだと、ずっと思っているんですね。本校があって分校があるので、本校とつながるってということが本当は強みになるはずなんですけれども。</p> <p>実はちょっと難しさがあるのは、進学拠点校としての高知追手前高校と、その地域に唯一の分校と、学校の役割が少し違うのかなと。なので、せっかく本校・分校という関係なんだけども、なかなかその連携が、十分には図りにくいのかなというところがあります。</p> <p>なので、もちろんまず、その地域で支えていただかないと、もちろんやっていけないんだけど、本校と分校の関係を何かうまくできないのかなと。本校があることをうまく使って、もちろん遠隔教育は一つなんですけれども。</p> <p>単に遠隔教育だけではなくて、何かもう少し、本校の生徒と分校の生徒が連携して、いろんなことができるようなやり方はできないのかなということが、一つ気になるところです。</p> <p>いずれにしても、両校とも、とにかく地域で一緒に育てていかないと、もう存続は本当に難しい状況に追い込まれていますので、ぜひとも、その地域の皆さんと一緒に協力していただけるようお願いしたいと思います。</p> <p>木村委員 ほぼ、お二人の意見と一緒になんですが、この嶺北高校魅力化の会が今年の3月にできたということが、本当にありがたい話だなというふうに思います。</p> <p>4町村の首長さんがベクトルを合わせて、地域の学校として本当に必要だという、未来像をある種具体的に描いていただいたということは、それに本当の意味で、県も応えていかないといけないのではないだろうかというふうに思います。</p> <p>今、両校とも遠隔教育をしているんですが、やっぱり、これはもっともっと高度化といいますか、すぐにはできないでしょうが、例えば外国の高校と直接つないで、ヒアリングができたりだとか。</p> <p>さらに子どもたちのレベルアップができるような場所が、中山間であろうとも、そういった高度な学習ができるような仕組みと知恵を、これから先、本当に働かせていかないといけないのではないだろうかというふうに感じました。</p> <p>中橋委員 繰り返しになりますけれども、嶺北高校につきましては、地域でお話を聞いた時にも、地域を挙げて高校を盛り上げようとする、その取組については非常に感心したというのか、感動したところがありました。</p> <p>今回このような要望も出されております。県教委としても、言われたからやるというわけではないんですけども、このような盛り上がりというのか、このような要望が出ていることについては、やはり学校の方で十分に取り入れて実践していく。地域で協力がないと学校はやっていけないと思いますし、これは十分に取り込んで、学校教育に生かしていけたらいいのではないかなというふうに思いました。</p> <p>吾北分校につきましては、遠隔教育という言葉が出てきますけれども、私としても、本校と分校で一つの学校だと思っていたんですが、なかなか</p>
--	--

	<p>実態はそうではないというところで、もっと教育という場面、広く言えば教育なんですけれども、その授業という場面だけではなくて、行事であったりとか課外活動であったりとか、場所的にも離れているので難しいところがあるかもしれませんが、中にいる生徒たちも一つの学校なんだと思えるような、何か取組。</p> <p>授業だけじゃない、そういった取組なんかも加えていくことによって、この吾北分校の振興にもなるんじゃないかなと思います。以上です。</p> <p>両校とも、ちょっと中山間地域で大変だと思います。嶺北高校に、私は昨年卒業式にも参列しましたが、地域の方々も本当に応援してくれているし、学生もとても真面目な印象を受けました。</p> <p>今日も、このカヌープロジェクトを前面に出して、魅力を開発していますが、今年は県外や遠方からの受験生はあったのかと。まだちょっと、私なんかもそこら辺は把握していませんけれども。</p> <p>団体競技ができないから、南国市や高知市の方に行くという話も聞きますし、やはり通うのは大変だということで、家族で高知市内の方に引っ越すという話も聞きます。</p> <p>ただ、この新しいプロジェクトも始めたばかりなので、やはりもう少し長い目というか、見守っていきたいとは思っています。</p> <p>あと、吾北分校なんですけれども、いの町に色々、支援金とか補助金を援助していただいています。やはり市内から通うとなると、私なんかも学校訪問をさせていただきましたが、天気とか時間などを考えると本当に大変だと思います。</p> <p>だから、地元の中学校ともしっかり連携の強化、地元のイベントなどに参加するという工夫もされていますけれども。</p> <p>今日ちょっと事務の方からいただいた、A日程の合格者は6名ですね。厳しい状況は本当に続いております。地域会でも、いの町長からも色々提案もしていただいたんですけれども、やはり分校の最低規模の在り方に基づいて、検討をしていかなくてはいけないと思います。以上です。</p>
<p>竹島委員</p> <p>田村教育長</p>	<p>はい。嶺北高校、吾北分校、共通して地元の協力というか、地元の盛り上げというのは非常に評価ができると。基本的にそういうことだと思っています。</p> <p>特に嶺北については、今日出していただいた、嶺北高校魅力化の会の方から具体的なご提案をいただいたということで、これにはしっかり応えていく必要があるというようなご意見が多かったように思います。</p> <p>それから、吾北分校については、一つは分校と本校との関係。分校であることのメリットというか、本校と一体的に連携して取り組むことによる分校の魅力化ということに、もっと力を入れるべきではないかというようなご意見。</p> <p>それから、もっと地元の中学校からの進学者を確保する努力をするべきではないかと、というようなご意見であったかなと思いましたが、けれども。</p> <p>大体そういうようなことでよろしいでしょうか。追加で何か付け足すようなことがありましたら、どうぞ。</p> <p>この資料3に書いてあることは、大体、今おっしゃっていただいたこと</p>

<p>各委員</p> <p>田村教育長</p>	<p>と、そんなに齟齬（そご）はないというふうに思いますけれども、この点については、大体ベースとして考えてもよろしいということでもいいですか。</p> <p>あと、もう一つ言い忘れておりました。ICTの活用ですね。ICTの活用について、もっと高度化というか、もっと工夫する余地もあるんじゃないかというようなご意見もあったように思います。その点も付け加えさせていただきたいと思います。</p> <p>では、この2校についても、資料3にあることをベースに、今いただいたご意見を加味して、今後さらに検討を深めるというような形でよろしいでしょうか。</p> <p>(了承)</p> <p>ありがとうございました。では、そのようにさせていただきます。</p>
-------------------------	--

ウ 中部地域①

<p>田村教育長</p> <p>山岡企画監</p>	<p>それでは次に、中部なんですけれども、中部はさすがに数が多過ぎますので、まず最初に二つに分けたいと思います。南国市までということ、城山高校から高知東高校まで、まずそこでいったん区切って、その後、高知南高校から高知国際高校までということ、分けて進めたいと思います。</p> <p>11ページをご覧ください。中部地域の高等学校の在り方の方向性について、説明させていただきます。</p> <p>城山高校につきましては、様々な学習歴や多様なニーズのある生徒への適切な支援等を通じて教育活動の充実を図ると、そういったことで生徒数の確保に努めるということです。そして、併せまして、地域貢献活動や中学校との連携を強化する。不登校経験や発達障害のある生徒等にも柔軟に対応できる学校ですので、そういったところを周知して、生徒数の確保に努めるということです。</p> <p>続きまして、12ページの山田高校でございます。地域での香美市長さんからの意見もありましたので、探究型の部分を、在り方の方向性の方に盛り込ませていただいています。香美・香南地区の進学拠点校として、地域をテーマとした課題発見解決学習、それから授業における探究型学習を通じて、国公立大学への進学者数をさらに増加させると。そして、香美市の方で行っております「香美市学園都市構想」、それを踏まえて、今、香美市では小学校・中学校で探究型学習を実施しております。それを発展・進化させて、高知工科大学における研究・学習につなげること。そういったことで、地域において探究型学習を完成させることを考えております。そして、定時制につきましても、働きながら学ぶことや学び直しにより、生徒のニーズに応え、進路を実現することを支援するという形にしていきたいと思っています。</p> <p>続きまして、高知農業高校でございます。13ページをご覧ください。</p> <p>高知農業高校につきましては、本県の農業教育を担う中心的な学校であります。「農業を学ぶ」ということによります農業後継者の育成と併せまし</p>
---------------------------	---

	<p>て、「農業で学ぶ」という視点で、命の尊厳とか豊かな心、感謝の心を育てる、そういった人材を育成したいと考えております。併せまして、グローバル化による競争力、そして6次産業化に対応できる、高い専門技術や教養を身に付けることもできるようにしていきたいと思っております。具体的には、農業生産工程管理（GAP）教育とか、食品製造に関する HACCP 教育の充実に取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>続きまして、14 ページ、高知東工業高校をご覧ください。</p> <p>全日制につきましては、機械系と電気系に特化した工業高校として、専門的な知識や技能を身に付ける産業人材の育成を図りたいと考えております。そして、基礎学力の定着と社会性の育成を図りまして、工業系大学への進学にも対応できるような、教育活動の充実を図っていきたいと考えております。そして定時制につきましても、働きながら学ぶことや学び直しなどにより、一人一人へのきめ細かな教育活動を実践していきたい。そして、進路の実現を図っていきたいと考えております。</p> <p>続きまして、15 ページ、岡豊高校です。</p> <p>大規模校ですので、多様な学習を可能とする教育課程のもと、生徒の進路希望に応じた多様な学びを提供すると。そして国公立大学から就職まで、生徒が希望する進路の実現を支援していきたいと考えております。そして最初、資料2でも説明させていただきましたけれども、「中部地域の運動部活動強化拠点校」であります。そして、体育コース・芸術コースがありますので、そういった専門性を活かして、運動・文化の両分野にわたり部活動を活性化させていただきたいと思っております。そして岡豊高校につきましては、嶺北高校と遠隔授業を取り組んでおりますので、さらに中山間小規模校の教育活動を、遠隔教育を通じて支援していきたいと考えております。</p>
田村教育長	<p>では、そこまでで。とりあえず、南国市までということ。</p> <p>それでは、城山高校から岡豊高校までについて、ご意見をいただきたいと思えます。そしたら、また順番にお願いしてよろしいでしょうか。</p>
竹島委員	<p>まず城山高校ですが、適切な配置という点では、色々な生徒に柔軟な対応ができる学校というので、ちょっと中芸高校とダブるのではないかという思いがあります。ここ数年、入学者も減ってきているので、やっぱりちょっと城山高校は検討していかなければいけないかなとは感じます。</p> <p>逆に山田高校は、高知工科大学がある香美市なので、小中高大の連携を目指して、学校や地域の方々もとても頑張っているものの、やはりなかなか人数の確保が難しいという点で、JR を使ってとても便利な場所に山田高校はあるので、もう少し南国市とか高知市の中学校にも色々PR をされて、人数の確保に頑張ってもらいたいと思えます。</p> <p>これからは、やっぱり香美市の進学拠点校として、工科大と本当に連携して頑張ってもらいたい高校です。</p> <p>あと、高知農業高校は、色々な取組をメディアでも取り上げてもらっていますし、新聞紙上を見ても、陸上部の選手の態度はとても良かったとか、すごく地域と密着している感じがありますので、これからの高知県のことを考えた場合、農業高校で学びたいという生徒・学生が増えたら、いい</p>

<p>中橋委員</p>	<p>傾向だと私は思います。 すみません、全部の意見はまとまらないので。</p> <p>個別の学校というよりは、今お話のあった中部の学校なんですけど、それぞれの学校が面白い仕掛けをかけて、学校を特色あるものにしようという動き、それはマスコミなんかでも報道されたり、それから学校訪問なんかに行っても、感じる場所であるんですが、それが何となく志願者数というんですか、それに結び付いていないというところを全体的に感じる場所です。</p> <p>決して交通の便が不便なわけでもない、必ずしもそうでもないのに、それで、面白い仕掛けをいっぱいやっているのに、人数の増加につながっていない。ここは何なのかなという分析はまだひとつできていないし、私も別に全く分からないんですけども。</p> <p>そこを今後、この後期においては、分析をしていかなければいけないのではないかなと思います。</p> <p>もちろん子どもの数が、絶対数が減っているのだから、それはやむを得ないことなのかもしれませんが。それにしても、よくマスコミなんかにも出て、面白い仕掛けをしている学校が、なぜか定員割れをしまっているところがある、非常に残念だなと思いますので、その辺りの分析、後期はそこら辺をやっていかなければいけないんじゃないかなと思います。以上です。</p>
<p>木村委員</p>	<p>城山高校に関しては、中芸高校と非常によく似たという話がありましたが、やっぱり距離的には相当の開きがあるような気がしますので、ある種、中部として、どうしてもそういう必要な要素を持った高校じゃないかなというふうに感じている場所です。</p> <p>あと山田高校、高知農業高校については、本当に生徒さんも先生方も努力をされていて、どうして、今日いただいたA日程のこれを見ると、山田高校の希望者が非常に少ない。実は私は、本当にすごく評価をしているんですが、最終の子どもたちのアウトプットする場として、例えば産業界として、もっともっとうざった子どもたちを育てあげた高校をどう評価していくかと。</p> <p>逆にいうと、もっとPRをしないといけないのかも分からないし、親も理解していかなくてはならない。単に、有名国立大学へ入った学校だけがよい学校ではなくて、それももちろん大事な要素なんですけども、そうじゃなくて、社会に出て役に立つ子どもたちをつくっていくというところが、より大きな目標ですから、そういったことに対する正しい評価をいろんな場面でしていく仕組みといいますか、それがないと、なかなか努力は報われないという気がいたしました。</p>
<p>八田委員</p>	<p>城山高校は、多様なニーズのある生徒への対応をしているというところが、今非常に重要な在り方になっているんですけども、そのことが逆に、進学をしようと思うような子どもたちからすると、何か魅力を感じないということになってしまっているのかな、ということもあると思うので、やはり、そこは何か在り方を考え直す必要があるのかなという気がします。</p>

それから山田高校は、非常にアクティブにやっておられるんだけど、ちょっとこれは山田高校だけの話ではなくて、普通科っていうのが、私もよく分からなくなってきていて、普通科神話みたいに、みんな普通科に行きたいっていうことがあるみたいですね。

普通科は、私もちょっと勉強不足ですけど、先ほど何うと、総合学科の次に自由度の高いカリキュラムであると。だから、単に普通科っていう看板ではなくて、普通科のなかで何を学んだっていうことを、もっと見せなきゃいけないのかなと。

例えば山田高校であれば、普通科だけでも探究型学習をやることとか。今度の新しい学習指導要領では、これがもう基本になってしまうので看板にならないかもしれないけども、こういう勉強をする普通科なんだっていうことを、山田高校だけではなくて、すべての普通科がもっと明確にしないと、何かよく分からないけど普通科っていう、変な普通科神話みたいになっているような気がします。

だから山田高校も含めて、普通科の中身が何なんだっていうことを、もっとアピールするべきなんじゃないかなと。それを明確にすると逆に、実は総合学科ってもっといいよっていうことが、見えてくるはずだと思うんですね。

それから、高知農業高校は、この地域でもうなくてはならない学校なんですけど、まだ少し定員が今ギリギリなところで動いていて、少し感じるのには、農業が今ものすごく大きく変わろうとしているところに、もっと早く入って行かなきゃいけないのかなと思います。ちょっと今日は、詳しく私、カリキュラムを勉強しているわけではないですけども、今、例えば農業高校の近くには農業技術センターもあるし、最近では法人経営の次世代ハウスもあるし、それからバイオマスが動き始めている。そういうものを、世の中がどんどん農業が変わっていったのに、そういう魅力的な農業の在り方っていうのが、学校の中にまだ十分に取込まれていないんじゃないかなということ、ちょっと危惧しているところがあります。

高知東工業高校なんですけど、実は東工業だけではなくて、工業系全体で今、電気が人気ないんですね。私も電気屋なもんですから、ちょっと、非常に悲しいんですけども。どこの工業高校も電気が少し人気なくて、ただ、就職としてはものすごく今求人が多い分野なのに、そこに何かこう、ギャップがあると。

非常に人材は欲しがられるんだけども、そこに学びに行こうとする子どもたちが今、少ないという状況があって、これは何が問題かちょっと分かりませんが、学科の置き方ではなくて、学科のPRの仕方が、やはりこれも問題なのかなという気がします。

最後、岡豊高校なんですけども、岡豊で体育コースとか芸術コースっていう、特徴ある普通科があるのに、むしろそこは人気なくて、何の特徴もない普通科にみんな行きたがると。そこが何か不思議な感じがして。

その特徴がもっと魅力を発揮すれば、例えば岡豊に行くんだったら、まず芸術か体育だよなと。でも、行けなかったら仕様がなから、普通の普通科にしておこうかっていうふうに、どうしてならないのかがちょっと分析ができないですけども。特徴のある勉強の方が、もっといいものだと思っは思うんですね。

それで特に今、大学の進学なんかを考えると、大学はいろんな科目ができる人を今採ってないです、あまり。こういうところが得意っていう人を、むしろ採るように高大接続なんかでも、そういう視点がだんだん増えてきています。

なのに、何かこう、おそらく子どもの心理からすれば、自分の進路なんかまだ決めたくないの、何も決めないで考えずに行ける所に行くっていう、モチベーションがあるのかもしれませんが、そこは中学校までのキャリア教育の問題かもしれませんが。

ちょっと話が戻りますけど、この場合はだから、こういう専門のコースがあるのであれば、そこがまず魅力を発揮して、そこがまず定員が埋まるような運営が本当はできるのがいいんじゃないかな。どうしたらいいか具体的に答えは無いんですけども、そういうことを感じました。以上です。

平田委員

私も皆さんのお話と関連しますけど、城山高校から岡豊高校までご説明ございましたけど、具体的に言えば、この学校の在り方の方向性で、学校と一緒に振興策に取り組んでいただきたいと思っております。

ちょっと違った観点でお話をするならば、私、市町村の市っていう所には、県立学校1校は必ず必要だと思いますね。そのためには、そこに位置付けられた高等学校としての、市の中での高等学校教育はどうあるべきかということ、振興策として研究をしていただきたいと思っております。

なかなか、A日程だけを見ますと、大変厳しい状況はあろうかと思えますけど、B日程でどうなるか分かりませんが、市に一つの県立学校は必要だという考え方を持って、振興策に取り組んでいただきたいと思っております。

それと、やはり周辺に大学があるとか高専があるとかする、地の利を生かした高等学校の在り方を考えてほしい。これは、農業教育においても南国市にあるということは、地の利を生かした教育に取り組んでいただきたいと思っております。産業系の学校は、農業高校と工業高校がございしますが、県の産業振興策なんかとも連携をして、教育内容も考えていただきたいと思っております。

また普通高校のなかにも、ここの地域におきましては、普通教育と別の教育内容も持った、多様な学習ができる科も設置をしておりますので、そういう点もアピールしながら、多様な子どもたちに応じた教育をしていただきたいと思っております。特に農業高校におきましては、やはり地方創生という鍵は、私は高知県で申したら、第1次産業にあると思っておりますので、この辺りは本当に農業教育の活性化には、今が大きなチャンスではないかと考えております。

以上のような点を、この学校についての私の意見でございます。

田村教育長

ありがとうございました。幾つか個別の話がありました。

城山高校について、学び直しに対応する、そういった高校として、中芸高校とどうなんだというようなご意見がありましたけれども、位置的に言えば適切な配置ではないかというような、肯定の意見もあったというふうに思っております。

それから、これは多分、はっきりと名前はおっしゃいませんでしたけれども、山田高校を意識されてのご意見じゃないかなと思っておりますけれども、

色々と特色ある取組をやっていて、成果も出しているのに、なかなか志願者が増えないということについて、それをどういうふうを考えるべきか。分析も必要だし、PR も必要だろうというようなご意見だったかと思います。

それから、普通科の在り方について、普通科神話というか、そういったことがあるなかで、普通科の中でも体育科・芸術科（コース）とか、色々と特色を出している科があるんだけど、そういった所よりも、特段の特徴を示さない高校、学科の方が、普通科の方が好まれる傾向にあるということについて、これはいかがなものかと。これは、改善していく必要があるのではないか、特徴を出している学科に志望者が集まるように。

あるいは逆に、普通科の中でも、さらにもっと特徴のあるようなコースも示すべきではないかと、というようなご意見があったかと思います。

あとは、特に高知農業高校について、今後も色々期待されるご意見が多かったかと思いますが、特に県の産業政策であったりとか、それから今の新しい農業の動き、そういったことに対応するような形で、もっと活性化をしていく必要があるだろうと、というようなご意見であったかなというふうに思いました。

あと山田高校の関係では、成果を出しているのに、実は志望者がなかなか少ないということに関連して、高校の評価についてももう少し、単に有名大学に進学するという視点だけじゃなくて、もうちょっと、社会に求められている人材はどうあるべきかというようなことで、評価の仕方をもうちょっと考えるべきではないかと、というようなご意見もあったかというふうに思いました。

大体そんなようなご意見であったかと思いますが、ちょっと違ふよということ、あるいは、もっとこういうこともあったということがあれば、ご意見をいただければと思いますけれども。

あと幾つか、さらに付け加えると、山田高校については、やはり地域の進学拠点校として位置付けるべきではないかというようなご意見もありましたし、それから東工業高校に関して、電気科について、求人は非常に多いのに志望者が少ないという、すごいギャップがあるということについて、その電気科についてのPRをもっと行うべきではないかと、というようなご意見もあったということでございました。

大体こんなことかなと思いますけれども、さらに何かありましたらお願いいたします。

中橋委員

先ほど、普通科神話というお話が出ましたので、ちょっとこの場で言うことが適切なのかどうか分からないんですけども、なぜ普通科とか、そういったものを期待するのかっていうところで、私の考えなんですけれども、やはり子どもの時から何かに特化してしまうっていうことの怖さっていうのを、保護者としては感じる場所がある。

それはもちろん、その色々な道で、トップになる人はもう小さい時から特化して、その道にまい進するんでしょうけれども、みんながみんなそんなにトップになれるわけじゃなくて、特化したものの途中でそれが挫折した時に、潰しの利かない状況になるっていうのを、非常に親としては恐れる。

	<p>そうなる、何か潰しが利くように、広く浅くじゃないですけども、そういった道の方に安全策として勧める、どうしても親としたらそういう道に勧めたくなる。もちろん子どもの方が、私はこの道に行きたいという強い希望があるのであれば、その道に進めさせてあげようかなという気にはなるかもしれないですけども、なかなか子どももそこまで。</p> <p>やはり親がレールを敷いてあげないと、そんなにこの道っていうふうにも言えない、となると、どうしてもそこは、無難な道を選ばせるのが子どもの幸せになるんじゃないかという、判断になってしまうところが、どうしても普通科神話といわれるようなことに結び付くのではないかなと思います。</p> <p>先ほどの話の中に、総合学科のお話もありましたけれども、地域に一つしかない学校においての総合学科ってということには、やっぱりどうしても親の立場となったら、えっ、ていうところがあって。</p> <p>もちろん、総合学科というものがどういうものなのかというアピールが、できていないというところもあるとは思いますが、やはり、どの道に行っても潰しが利くのが普通科じゃないかなというところ、そういう意識があって、やはり普通科神話に結び付いているのではないかなと思います。</p>
田村教育長	<p>ありがとうございました。実際に学齢期の子どもさんを抱えられる立場で、切実なお話であったかなというふうに思います。</p> <p>やはり普通科は選択肢が広いということですよ、将来的な。そういう選択肢が広い普通科というのが、やはり小さいうちから、あまり方向性を固めてしまうことについての懸念というか、そういうこともあるのではないかと、というようなことであったかなと思います。</p> <p>そういう意味で、地域に総合学科しかないということについては、少し抵抗もあるんじゃないかというようなご意見ということでもよろしいでしょうか。</p>
中橋委員	はい。
田村教育長	<p>ありがとうございました。そういうようなことも考えながら、これから学科の在り方について考えていかなければならないと思いますけれども。</p> <p>今のお話についてどうですか、八田委員いかがでしょう。</p>
八田委員	<p>いや、私自身もまだ、普通科とは一体何なのかというのが、必ずしも正確に理解できているわけではなくて、普通科っていうのはどこまでカリキュラムの縛りがあって、どこまでの自由度があって、それぞれの学校は全く同じ普通科のカリキュラムをやっているのか、それぞれの高校によって、普通科といいながらこういうことをやっているっていうのもあると思うんですけども、そういうのがなかなか見えてきていないのかなという気がします。</p> <p>逆に総合学科も、私も本当に不勉強ですけども、カリキュラムそのものは、普通科よりもはるかに、さらに自由度が高い。で、産業系とか具体的に何科っていう名前が付くと、そこに縛りが少し出てくるというようなこ</p>

	<p>とで、じゃあ、それがどれくらい中身として違うのかっていうことが、なかなか、われわれの不勉強もあるし、外に対する PR も不十分なのかな。</p> <p>この学科名だけで考えないで、その学科ってというのが一体どんな勉強なのかっていうことが、もう少し分かりやすく伝わる仕組みが本当は必要なのかなという気がします。</p>
木村委員	<p>大げさな話になって申し訳ないんですけど、要は、普通の人をずっと求めてきているんですよね。それが今、グローバルな世の中を見ていくと、普通の人 は求められてないんですよね。何かに特化した人とか、何か強い個性のある人が世界の中では求められていると。</p> <p>それをそのまま高知に当てはめろという意味ではないんですけど、やっぱりいつかの段階で、教育の場でそういった個性をつくり上げていくということに、少し力を入れていかないと。そのためには、一つ、この総合学科というのは道筋の一つではないかなというふうに、私は個人的には感じるんですね。</p>
田村教育長	<p>ありがとうございます。このことについて高等学校課の方から、普通科、総合学科について、ちょっと説明してもらえますか。</p>
高岸課長	<p>はい。今、ご意見がありましたように、普通科によっても、かなり学校によって教育課程は違っております。</p> <p>普通科でも、いわゆる進学を重視した学校におきますと、例えば数学でいきますと、数Ⅰから始まって数Ⅲ、数Ⅱまでやるというような教育課程も見ますけれども、中山間地域におきましては、なかなかそこまでいかないの、一部選択で取れるような形になっています。教育課程がやはり普通科でも、学校規模、置かれている状況によって違っていているというのは、事実でございます。</p> <p>そのなかで、言われているように、普通科は普通科系の科目だけでございますので、総合学科とか専門学科とはかなり違ってくる。総合学科は、普通科と専門学科との中間的な立場になります。例えば、室戸高校でありますと、工業の系列がありますので機械系の科目を選べる。けれども、工業高校までの単位数、時間は取れないというような形になります。中間的な学校にはなってきます。</p> <p>ですから、この特化するという意味合いでいくと、やはり専門高校・専門学科ということになってきますし、幅広くということになりますと、委員からご意見がありましたように、どうしても普通科というような形になってこようかと思えます。そういった、高知県においてもいろんな、普通科のなかでも幅広い教育課程が組まれているというのが実情でございます。以上です。</p>
田村教育長	<p>普通科について、この後の話に出てくると思いますがけれども、高知小津高校の理数科とか高知西高校の英語科、ここも実は志望者が少ないですよ。そこら辺りは今の話とちょっと関連することかなと思えますけれども。</p> <p>いずれにしても、これからそういった普通科、あるいは総合学科の在り方について検討を行う必要があるのではないかと、そういうことかなとい</p>

山岡企画監	<p>うふうに思います。</p> <p>それでは、今、議論をいただきました城山高校から岡豊高校までについては、この資料の3に書いてある内容について、特に個別のご意見はよろしいでしょうか。大体こういうような方向性で、ベースとしては良いということでもいいですか。</p> <p>特段なければ、先ほどと同様に、この資料3の記載内容をベースにしながら、今いただいたご意見を加味して、さらに検討をかけていくと、そういうような形にさせていただきたいと思います。</p> <p>それでは、残りの高校について説明をしてください。</p> <p>はい。次は高知東高校でございます。16ページをご覧ください。</p> <p>高知東高校は、今議論になっております総合学科の看護科でございます。幅広い選択科目から、進路にあった科目を学習する総合学科の特色を生かした教育を推進する。そのことによりまして、多様な進路希望に対応できるカリキュラムを生かしていくと。そういったことで、教育活動の充実に努めるということでございます。そして看護科は、専攻科とあわせて5年間の一貫教育でございますので、医療機関と連携した実習などによりまして、将来、看護師として活躍できる人材を育成したいと考えております。</p> <p>次に、高知南高校・高知南中学校につきましては、高知西高等学校と統合して、高知国際中学校・高等学校に移行するということでございます。17ページの高知工業高校でございます。</p> <p>全日制につきましては、工業学科をもつ学校の拠点校として、地域や我が国の工業技術の発展やものづくりに貢献する人材を育成するということです。そして、探究型学習を高知工科大学と連携して行うと。そして高度な資格取得に向けた指導体制を構築するということです。そして、部活動の「中部地域の運動部活動強化拠点校」でありますので、運動部活動の振興を通じて、特色ある学校づくりに取り組みたいと考えています。そして、工業教育の牽引役として、就職から国公立大学、難関大学への進学希望にも応えられる指導体制を構築したいと考えております。</p> <p>定時制につきましては、専修コースや編入制度などの活用により、高い専門性を身に付けることや資格取得、そういったことにつなげていきたいと考えております。</p> <p>続きまして、高知追手前高校、18ページをお願いいたします。</p> <p>すべての教育活動を通して、奮闘努力の精神をもって頑張っていくと。「志」の追求というところに取り組んでいくということでございます。そういったことによりまして、将来、我が国の科学技術の発展を支える人材、そしてグローバル人材、国際的に活躍できる人材、地域を支え貢献できる人材を育成したいと考えております。進学拠点校として指定しておりますので、県全体の進学指導力を向上させる牽引の役割を担っていただきたいと思います。そして今、吾北分校との遠隔教育を行っておりますので、そういった遠隔教育の中核をなす拠点校として、中山間小規模校の教育活動を支援するという取組を、継続していきたいと考えております。</p> <p>19ページの高知丸の内高校です。</p> <p>先ほど話も出ましたけれども、課題としましては、音楽科の志願者が少ない状況があるといった課題がございます。学校の在り方の方向性のとこ</p>
-------	--

	<p>ろですけれども、多種多様な選択科目の設定、そして大学等との連携授業による単位制の特色を生かし、生徒の進路希望に応じたカリキュラムを充実させるというところでは、音楽科につきましては、音楽活動を通じて、豊かな感性を持った生徒の育成に努めていきたいと考えております。</p> <p>続きまして、20 ページ、高知小津高校でございます。</p> <p>同じように、先ほど少し課題に出ましたけれども、理数科の志願者が少ない状況にあるというところがございます。在り方の方向性としましては、理数教育の拠点校として、スーパーサイエンスハイスクール事業に学校全体で取り組む、そして、本県の理科教育を牽引するというところでは、高知追手前高校と同じように、進学拠点校として、県全体の進学指導力を向上させる牽引役とさせていただきたいと考えております。</p> <p>続きまして、21 ページの高知北高校でございます。</p> <p>昼間部につきましては、多様なニーズを持つ生徒に応じたきめ細やかな支援を行い、社会的なスキルを向上させる学習を取り入れることで、進路希望の実現を目指すというところでは、夜間部につきましては、働きながら学ぶことや学び直しなど、多様な生徒の居場所づくりを推進する。限られた時間を活用して学ぶことで、進路希望の実現を目指すというところでは、通信制につきましては、多様な学習歴を持つ生徒に対する支援を行い、計画的な学習を確実に継続できる生徒の育成の努めるというところでは、</p> <p>続きまして、22 ページです。</p> <p>高知西高校につきましては、高知南高校の所でもありましたけれども、高知南中学校・高等学校と統合して、高知国際中学校・高等学校に移行するというところでは、高知国際中学校は平成 30 年度から、高知国際高校は平成 33 年 4 月から開校しますけれども、この中学校・高校につきましては、グローバル教育のトップ校として、探究型学習とキャリア教育を推進して、地域や国際社会の発展に貢献できるグローバル人材を育成するというところでは、高い英語運用能力と探究力や、バランスのとれた国際感覚と行動力を育成する教育活動を充実させていきたいと考えております。そして、国際バカロレア（IB）の関係では、平成 32 年 8 月にミドル・イヤーズ・プログラム（MYP）を取得、そして、ディプロマ・プログラム（DP）は、平成 33 年 4 月に認定されることを目指しております。説明は以上です。</p>
田村教育長	<p>残りの高知市内校について説明してもらいました。市内校ということもありまして、地域会でのご意見は無いということで、これまでの高校と違って、地域との結び付きという面では、あまりそういったことのない高校ということになりますけれども、この高知市内校について、ご意見をいただきたいと思っております。</p> <p>そしたら、平田委員よろしいでしょうか。</p>
平田委員	<p>大変、ご説明ありがとうございました。高知市内校の大規模校ということで、それぞれの学校には役割もあり、それぞれの学校が特色づくりをしてくださっていると思っております。</p> <p>今後は、方向性を一層大事にしながら魅力化を図っていただきたい。また、それぞれの学校、生徒につきましては希望が可能になるような、自己実現ができるような教育をしてほしいという思いでございます。一層の魅</p>

	<p>力化を図ってほしいというのが、説明のあったそれぞれの学校へ希望することです。</p> <p>しかし、このなかでも高知北高校の昼間部・夜間部・通信制という、子どもたちの多様なニーズに応じた、この高知市の北高校というのは、学校としての存在は大変、本県の子どもたちにとって大きいものがあると思いますね。一度つまずいた子どもたちにとっても、この高校で学び直しがきく学校であってほしいと思っております。以上でございます。</p> <p>市内校については、「前期実施計画」で高知西高校と高知南高校が統合するというので、全体の規模を維持しながら、何とか活性を保っていくということで進めているところですが。それでも、まだこれから生徒が減ると、今後さらに、まだ何か考えざるを得ないのかなというのが、一つ危惧しているところです。</p> <p>先ほど、教育長からありました高知小津高校の理数科が、本当に不思議というか、どうしてこういうことになっているのかどうしても分からなくて。SSH（スーパーサイエンスハイスクール）は私もずっと関わっているので、当初2クラスあった理数科が1クラスになって、それでも集まらないと。</p> <p>でも、例えば今回の資料で見ると、普通科の方から3クラスぐらい理系進学クラスがあると。</p> <p>じゃあ、理系に行きたいんだったらどうして、あんなすばらしい授業をやっている理数科を先に受けないのかなと。理数科はちょっと受からなかったから、普通科にしようかなだったら分かるんだけども。</p> <p>先ほど中橋委員からもこういう話がありましたけれども、非常に中身のいい教育をしているんだけども、そこに特化していくことが避けられるだけなのか。それとも、まだやはりPRが不足なのか。</p> <p>非常に進学実績も上がってきている。非常に探究型の勉強がちゃんとできている。そういうのが、中学生に見えていないのかな。あるいは、中学生はそんなことは期待していないのかな。ちょっとよく分からないですね。</p> <p>で、あんなにすばらしいことをやっている所には、実は行かない。せめてSSHが成功というためには、理数科がまず定員が埋まって、そこから普通科に流れていくっていう形になって当たり前であって。</p> <p>そうならないとすると、SSHをやってきたけれども何が欠けていたんだろうかと、少し反省しないといけないのかなというふうに感じています。以上です。</p>
<p>八田委員</p>	<p>市内校については、「前期実施計画」で高知西高校と高知南高校が統合するというので、全体の規模を維持しながら、何とか活性を保っていくということで進めているところですが。それでも、まだこれから生徒が減ると、今後さらに、まだ何か考えざるを得ないのかなというのが、一つ危惧しているところです。</p> <p>先ほど、教育長からありました高知小津高校の理数科が、本当に不思議というか、どうしてこういうことになっているのかどうしても分からなくて。SSH（スーパーサイエンスハイスクール）は私もずっと関わっているので、当初2クラスあった理数科が1クラスになって、それでも集まらないと。</p> <p>でも、例えば今回の資料で見ると、普通科の方から3クラスぐらい理系進学クラスがあると。</p> <p>じゃあ、理系に行きたいんだったらどうして、あんなすばらしい授業をやっている理数科を先に受けないのかなと。理数科はちょっと受からなかったから、普通科にしようかなだったら分かるんだけども。</p> <p>先ほど中橋委員からもこういう話がありましたけれども、非常に中身のいい教育をしているんだけども、そこに特化していくことが避けられるだけなのか。それとも、まだやはりPRが不足なのか。</p> <p>非常に進学実績も上がってきている。非常に探究型の勉強がちゃんとできている。そういうのが、中学生に見えていないのかな。あるいは、中学生はそんなことは期待していないのかな。ちょっとよく分からないですね。</p> <p>で、あんなにすばらしいことをやっている所には、実は行かない。せめてSSHが成功というためには、理数科がまず定員が埋まって、そこから普通科に流れていくっていう形になって当たり前であって。</p> <p>そうならないとすると、SSHをやってきたけれども何が欠けていたんだろうかと、少し反省しないといけないのかなというふうに感じています。以上です。</p>
<p>木村委員</p>	<p>個々の学校については、学校の在り方の方向性というものに全く異論はないところですが、30年度の公立高校、高知商業高校まで入れた定員の総数が、5,330人というふうにここに書かれていますが、第1志望者数が3,966人ということで、全体でいくと、はなから定員割れしているわけですね。</p> <p>これをそのままにしておくと、東部・西部、それから中山間の学校の生徒数が、ますます厳しいものになっていくんじゃないかという心配があります。</p> <p>そういう意味合いでは、大規模高校の定員数を、見直すのがいいのかど</p>

<p>中橋委員</p>	<p>うか分かりませんが、中学校卒業者数に合わせたような定員を少し考えていかないと、希望者数の少ない学校が、ますます厳しい状況に追いやられるんじゃないかなってというような気がいたしました。</p> <p>高知市内校につきましては、各学校の特色というのは、もうある程度定着したものがあって、それぞれに役割分担が、現段階ではできているのではないかなと思いますので、今の特色を生かして、さらにそれを発展させる、各校を発展させるという方向性で、とりあえずはいいとは思いますが、それでも。</p> <p>先ほどからお話に出ているように、「後期実施計画」はこれでいいにしても、その先を考えながら、やはり計画を実施していかないと。絶対数が少なくなっている状況のなかで、当面のその場しのぎだけで進んでしまっただけではいけないというのを、感じるころではあります。</p> <p>それとあと、北高校について、先ほどもお話がありましたけれども、この北高校のニーズというのは、さらに増えるのではないかなというふうには思っています。</p> <p>一つ、これは可能かどうか、「後期実施計画」に入れるのかどうかとか、そういう話ではなく、途中でドロップアウトした子どもの受け皿、1年生の入学の時というだけじゃなくて、途中、別の高校に行っていたりとかしてドロップアウトした子の受け皿としても、北高校が存在価値を見出せたらいいのではないかな、というのをちらっと思いました。以上です。</p>
<p>竹島委員</p>	<p>皆さん、ほとんど言われたんですけど、県の人口も高知市内に約半数は住んでいることを考えると、やはり市内校に集まってくるのも分かりますし。</p> <p>またここで、各学校の特徴をもっと生かして頑張ってもらいたいって言うと、これ以上、市内校へ学生が進学してしまうと、やはり郡部の高校の人数の確保がもっと難しくなるっていう点で、私もちょっと悩むんですけども。</p> <p>市内校は前期に大きな統合をしているので、やっぱりしばらくは人数はあまり変えないで、大きな全体として、やはり郡部の学校にもう少しいろんな面で頑張ってもらっていただければいいと思います。</p>
<p>田村教育長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>市内校について、全体としては、各校の今の方向性については、それぞれ役割分担ができていて、基本的にそれを充実していくという方向でいいのではないかと、というようなお話であったかと思います。</p> <p>あとは、定員のことに関して、そもそも市内校の定員の数と実際の志願者数を見ると、そこに既にかい離があるということから、そもそも定員の在り方について、考える必要があるのではないかなというようなご意見がある一方で、「前期実施計画」の中で、統合を一定やっているというところで、今しばらくは今の形でどうかというようなご意見もあったというように思います。</p> <p>それから、特に高知小津高校の理数科について、大変いろんな意味で実績も上げているし、いい教育もやっているのに、なんで志願者が少ないの</p>

	<p>か。そのところをもう少し分析もして、対応しなければならないと。スーパーサイエンスハイスクールの成果をしっかりと示す意味でも、理数科について、もう少し志望者が集まるような、そういった努力をしなければならないのではないかというようなご意見だったと思います。</p> <p>あと、高知北高校については、多様な生徒の受け皿ということで、大きな存在意義があるということですし、特にドロップアウトした生徒の受け皿としても機能すれば、もっと存在意義が高まるのではないかと、というようなご意見があったというふうに思います。大体そんなようなことでよろしいでしょうか。</p> <p>高知北高校は今でも、途中からの転校生の受け入れというのは、結構やっているんじゃないかなというふうに思いますけれども、ということですよ。</p>
中橋委員	はい。
田村教育長	<p>そのほか、ご意見ございませんでしょうか。あるいは、今ちょっと話題になったのは、高知市内の高校の定員の数、それについて少しご意見も出たわけですが。</p> <p>このことに関して、教育委員会事務局として少し申し上げますと、先日ちょうど、高知市内校の定員についての議会質問が出ました。その際に、私の方からお答えしたのは、基本的に高知市内校については、一定規模がある6学級以上の学校ということで、いろんな多様な学びができるというような、そういう一定の活力ある学校として維持していく必要があるんだということで、基本的には今の定員を維持させてもらいたいと。</p> <p>それから、「前期実施計画」の中で、高知南高校と高知西高校を統合したということで、3年後にはその分の定員が減になるので、その効果を少し見守らせていただきたいということで、今しばらくは今の形で、高知市内校については、定員は維持させていただきたいというような答弁をさせていただいていますので、そのことについては、ご理解ご了解いただきたいというふうに思います。</p> <p>この高知市内校について、その他ご意見ございませんでしょうか。では、今資料3で示している方向性自体には、そんなに違和感はないということよろしいですか。</p>
各委員	(了承)
田村教育長	<p>はい。それでは、これまでと同様に、いただいたご意見をもとに、さらに検討を深めていくということにさせていただきたいと思います。</p> <p>それでは、本日予定をしておりました協議事項は以上でございますけれども、全体を通じて、何かご意見がありましたらお願いいたします。</p>
八田委員	<p>先ほど、木村委員からもご指摘があったように、今全体としては、高校の定員と実際の中学生の数がもう、かい離してしまっていると。で、このかい離状態をどれくらいまで維持していくのかなと。</p> <p>何かもう少し、大きな方向性を考える必要があるような気がします。そ</p>

田村教育長	<p>れは結局、極端にかい離してしまえば、受験生からすれば入りやすい、どこかには入れる。でも、受験戦争をあおってはいけないけども、高校へ行くための勉強というモチベーションはどうしても下がってくるので、そのバランスが。</p> <p>今さすがに、この4,000人の中学生に対して5,000人の定員っていうのは、ちょっと極端に定員が大きすぎるのではないか。いろんな、それを近づけていくことのメリット・デメリットはあるんだけども。少しバランスを欠いているような気がするんだけど、それをじゃあ、どれくらいにするのが適正なのか、という答えがあるわけではないんですけども。</p> <p>もう少し大きな視点で、高知県全体の定員というのはどれくらいにするべきなのかな、というようなことが議論されてもいいのかなという気がします。</p> <p>はい。そういったことについても、今後、議論をさせていただくということにしたいと思います。</p> <p>そのほか、よろしいでしょうか。</p>
-------	---

【閉会】

田村教育長	<p>特にないようでしたら、予定しておりました時間より少し早いですけれども、以上で終了させていただくということによろしいでしょうか。</p> <p>はい。それでは、どうもありがとうございました。以上をもちまして、第9回の教育委員会協議会を終わらせていただきたいと思います。</p> <p>何か事務局から連絡事項がありますか。</p>
山岡企画監	<p>次回は、第10回の全体会を3月28日に、ここ共済会館で開催したいと思っております。中部地域の残りの学校、そして高吾地域と幡多地域の学校について、学校の在り方の方向性をお示しさせていただきたいと考えております。以上でございます。</p>
田村教育長	<p>そしたら、次回は3月28日ということによろしく願います。今日はどうもご苦労さまでした。ありがとうございました。</p>